



20 伊建第 208 号
平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 殿

伊那市長 小 坂 樫 男



今後の道路行政についての意見・提案について (提出)

平成 20 年 9 月 19 日付国道企第 37 号にて依頼の標記については、別紙のとおり提出
します。

伊那市建設部建設課
建設調査係 城倉三喜生
電話：0265-78-4111(内 2531)
Fax：0265-78-8100

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

長野県伊那市

① 道路行政全般についての改善すべき点、要望や提案など

公共交通網の発達した都市圏とは違い、日常生活の移動手段として車に頼らざるを得ない地方においての道路整備は、正に死活問題です。

また、広域交通を担う主要な国・都道府県道の整備については徐々に進んではいるもののまだ未整備区間もあり、住民生活に密着した市町村道の整備の遅れも問題となっています。

更に、道路特定財源が一般財源化され、道路行政を進めるための根幹である財源確保が、不透明な時代になってしまう不安を抱えつつ、今後は、限られた財源の下、国や地方自治体がそれぞれの立場で、住民にとって真に必要な道路を計画的・段階的に整備していくことが、ますます求められる時代だと考えます。

多くの地方自治体では、主要な道路整備に当たっての自主財源確保も難しく、国からの補助に依存しておりますので、今後も地方自治体の要望に沿った、国の財源確保を望むものです。

また今後、道路行政においても行政改革による地方分権が進むと予想されますが、地方自治体にとって経費負担増となる地方分権では地方財政を圧迫してしまいますので、財源を伴った無理のない分権を望みます。

②—1 地域の現状と抱える課題

○現状

現在、伊那市内を通り南北に連絡する道路は、中央自動車道を軸として、国道153号・152号と、県道では3路線及び市道1路線が主交通を担い、県道4路線、市道の2路線が補完しており、南北軸は12時間でおおよそ58,000台の交通量があり、人や物流など伊那谷の動脈となっています。

また、市内を東西に連絡する道路は、国道361号、県道では、3路線、市道では、5路線が担っており、東西軸で天竜川を渡る交通量は、12時間でおおよそ57,000台と南北軸に匹敵する交通量がありますが、天竜川やJR飯田線そして天竜川の河岸段丘に阻まれるなどの地形的条件や市街地の家屋密集などの物理的要因による未整備区間があります。

※ 道路網整備状況について

国道は市内で着手したばかりの153号伊那バイパスを除いて3路線で実延長148.3kmに対して改良済延長が109.3kmと改良率は、73.7%と進んでいます。

県道については、10路線で実延長143.4kmに対して改良済延長が91.3kmと改良率は、63.7%と進みつつあります。

一方市道については、都市計画道路を主とした20路線で実延長34.8kmに対して改良済延長が9kmと改良率は、26.0%とまだまだこれからという状況です。

※ 道路交通状況について

現在、伊那市内の主要な道路は放射状となっていて、市街地に用事のない車も市街地へ向かう車も市街地の中心を一度は通らなければなりません。また、市街地を東西に分断するように天竜川とJR線が通っており、天竜川を横断する道路はありますが、右折車線がない箇所やJR線とは踏切で平面交差となっています。これらの理由により、特に市街地の中心部では、特に南北方向の交通で顕著に現れています。朝夕の交通量が多くなる通勤時間帯に渋滞が発生しています。

○課題

○国道や主要な県道などの広域幹線道路では、慢性的な交通渋滞が発生しているため、計画的な道路整備が求められています。

○市内の主要な道路は、放射状となっており、市街地に用事のない車も市街地を一度は通過しなければならないため、朝晩の通勤時間帯の渋滞が顕著となっており、渋滞の解消となる道路整備が求められています。

○天竜川やJR線そして天竜川の河岸段丘に阻まれるなどの地形的条件や市街地の家屋密集などの物理的要因により、道路整備に多額の費用が必要であるため未整備区間が多くあります。

○道路を整備するための自主財源の確保。

②—2 地域の目指すべき将来像

伊那市の将来像として「二つのアルプスに抱かれた自然共生都市」をキャッチフレーズに素晴らしい自然と人が共生し、産業が自然と調和して発展するまちを目指しています。

副題として「人と歴史と文化を育む、活力と交流の美しいまち」とし、歴史と文化を大切にし、多くの人が訪れる活力に満ちた、交流が盛んな美しいまちを目指します。

道路関係では、広域幹線道路を始め、市内の幹線道路を整備することにより、以下の施策に寄与していきます。

- 住民の快適な生活環境の創出。
- だれもが安心・安全に暮らせるまちづくり。
- 地域の活性化のため、既存産業の振興と新たな産業の誘致。
- 自然との共生を図り、地域資源を生かした魅力ある地域づくりと観光の振興。
- 環境に配慮し地域の実情に合った、持続可能な地域公共交通システムの構築。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

長野県伊那市

③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上 ・良好な景観の形成 ・少子高齢化に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	・国道153号伊那バイパスの早期完成 ・国道153号伊那春富バイパスの調査及び早期事業化 ・国道361号伊那市街地におけるバイパス化の調査及び早期事業化 ・国道152号高遠バイパスの早期完成 ・国道152号藤沢バイパス(栗田～四日市場)の早期事業化 ・国道152号地蔵峠、青崩峠等交通不能区間の早期解消と狭隘区間の改良促進 ・国道152号分杭峠狭隘区間の改良促進、冬季閉鎖区間の早期解消 ・市道上牧笠原線、西部1号線、黒後内線の改良 ・市道二条線の踏切改良 ・スマートインターチェンジの整備促進 ・無電柱化の推進と道路空間のバリアフリー化の推進 ・生活路線の交通事故防止対策及び歩道整備の推進	・通過交通が市内から分散されることにより、渋滞の緩和による地球温暖化防止への寄与。 ・住民の快適な生活環境の創出。 ・既存産業の振興と新たな産業の誘致。 ・だれもが安心・安全に暮らせるまちづくり。 ・地域資源を生かした魅力ある地域づくりと観光の振興。 ・「日本風景街道」を推進し、官民協働による沿道景観の保全、交通安全・防災に配慮したまちづくりへの寄与。	